

「でんきと私」

電気科2年 伊藤 樹

僕は、この冬休みである会社の職場見学会に参加しました。その会社は、鉄道電気設備の検査をしたり、修繕・工事をしたりする会社で、職場見学会では会社の概要について話を聞いたり、踏切の遮断桿の点検(一定の高さで止まるか)や非常停止ボタンの点検(ボタンを押すとランプが光るかどうか)などの体験をしました。僕は、この見学会を通して学んだ事が二つあります。

一つ目は、この仕事の重要性です。電気といえば僕たちが使うテレビや冷蔵庫、照明などに使われるイメージが強くありました。なので、初めは鉄道と電気にどんなかわりがあるのか分からず、この仕事に重要性や必要性をあまり感じられませんでした。ですが、話や体験を通して僕たちが普段当たり前に乗っている電車は裏で定期的に検査をしたり修理をしてくれている方がいるからだという事を知りました。これを知り、この仕事が社会にどのように関わっているか、貢献しているかを知ることができ、この仕事の必要性や重要性を学ぶことが出来ました。

二つ目は、安全に作業する事が需要だという事です。体験の中で、架線と呼ばれる電気が流れる部分を高所作業車で点検しました。この時、架線の厚さを数ミリ単位で点検すると言われていて、数ミリ単位の点検なので、集中して慎重に作業しないと、ミスをしてしまって点検後や修理後で電車が走る時に大きな事故に繋がってしまうと思いました。また、作業中に事故が起きると、作業が大幅に遅れてしまうので、そうならない為にも安全に作業する事や作業出来る環境が大切だという事を理解しました。

今後、自分がどの仕事に就きたいと思うか分からないけど、見学会で学んだ知識や経験をこれからの進路選択に活かしたいです。